

厚生労働科学研究費補助金
(政策科学総合研究事業(統計情報総合研究事業))

令和7年度 分担研究報告書

ICD-11の適用を通じて我が国の死因・疾病統計の向上を目指すための研究

「ゲーム障害(主にオンラインによる)の罹患率に関する探索的研究」

研究分担者 成田瑞 国立精神・神経医療研究センター行動医学研究部精神機能研究室
室長

研究要旨

ICD-11への改訂により、ゲーム障害(Gaming Disorder)が正式な診断として位置づけられた。しかしながら、我が国においては当該診断の罹患率や関連する病態生理に関する疫学的知見は依然として乏しい。本研究では、一般住民コホートの未成年サンプルを用い、Problematic Online Gamingの有病率および精神健康指標との関連を探索的に検討した。さらに、注意欠如・多動症状と後年の精神健康問題との関連において、Problematic Online Gamingが媒介因子として機能する可能性についても検証した。その結果、Problematic Online Gamingは高頻度に認められ、抑うつ、不安、精神病様体験、ウェルビーイング低下と有意に関連していた。これらの知見は、ICD-11に基づくゲーム障害の疫学的位置づけを考える上で重要な基礎資料となる。

A. 研究目的

ICD-11において新たに診断分類として加えられたゲーム障害および関連するProblematic Online Gamingについて、一般人口における分布状況および精神健康との関連を明らかにすることを目的とした。また、注意欠如・多動症状と精神健康問題との縦断的関連において、Problematic Online Gamingが関与する病態メカニズムを探索的に検討することを目的とした。

B. 研究方法

東京ティーンコホート(Tokyo Teen Cohort)に参加した出生コホート3171名の縦断データを用いた。Problematic Online Gamingは14歳時点の自己記入式

質問紙により評価し、精神健康指標として抑うつ症状(SMFQ)、不安症状(CBCL)、精神病様体験(APSS)、ウェルビーイング(WHO-5)を16歳時点で評価した。解析には多変量回帰分析、doubly robust estimation、および因果媒介分析を用い、年齢、性別、家庭環境、心理社会的要因等の交絡因子を包括的に調整した。

(倫理面への配慮)

関連するサーベイは全て倫理承認を得ており、また全ての参加家庭からインフォームドコンセントを取得している。

C. 研究結果

14歳時点において、Problematic Online

Gaming に該当する行動を 1 項目以上有する者は全体の約 4 分の 3 を占めていた。また、4 項目以上を満たす高リスク群も一定割合認められた。Problematic Online Gaming の重症度は、抑うつ症状、不安症状、精神病様体験の増加およびウェルビーイングの低下と有意に関連していた。さらに、12 歳時点の注意欠如・多動症状は 14 歳時点の Problematic Online Gaming と有意に関連しており、Problematic Online Gaming は注意欠如・多動症状と 16 歳時点の精神健康問題との関連を部分的に媒介していた。

D. 考察

本研究により、Problematic Online Gaming は日本の一般住民思春期集団において高頻度に認められ、ICD-11 におけるゲーム障害が公衆衛生上無視できない規模で存在する可能性が示唆された。また、Problematic Online Gaming が注意欠如・多動症状と精神健康問題との関連を媒介していた点は、ゲーム障害を単独の行動嗜癖として捉えるのではなく、既存の精神病理と相互に関連する動的な病態として理解する必要性を示している。これらの知見は、今後の予防戦略および介入研究の基盤となると考えられる。

E. 結論

Problematic Online Gaming は思春期集団において高い有病性を示し、複数の精神健康問題と縦断的に関連していた。ICD-11 に基づくゲーム障害は、我が国の疾病統計において今後重要な位置を占める可能性があり、継続的な疫学研究が必要である。

G. 研究発表

1. 論文発表

Narita ZC, et al. (2025) “Problematic online gaming mediates the association between attention-deficit/hyperactivity and subsequent mental health issues in adolescents” *Communications Psychology*, Vol.3, 117. <https://www.nature.com/articles/s44271-025-00296-5>

2. 学会発表

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし